

授与する学位の名称	修士(リハビリテーション科学) [Master of Science in Rehabilitation]	
人材養成目的	リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する高度専門職業人や大学教員(研究者)を養成する。	
養成する人材像	本学位プログラムにおいては、現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場的課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。	
修了後の進路	社会人大学院生を対象にすることから、現職場(医療・保健機関、福祉・相談施設、学校関係(特別支援学校や特別支援学級を含む)、リハビリテーション従事者養成機関、職業センターや障害者を雇用する企業、法律・行政機関など)において国内・国外のリハビリテーションの指導者の立場で活躍することを目的とする。さらに、修了後、博士課程に進学し、大学や専門学校等に転じて教育・研究分野で活躍することもあわせて目的とする。	
ディプロマポリシー		
筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士(リハビリテーション科学)の学位を授与する。		
知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	リハビリテーション方法論基礎Ⅰ、修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	リハビリテーション概説、達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	リハビリテーション特別研究、学会発表など
4. チームワーク力:チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ、特別支援教育授業論、学会での質問、セミナーやゼミでの質問など
5. 国際性:国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な研究動向に関する情報収集や行動に必要な語学力を有するか	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ、リハビリテーション英語、国外での活動経験、留学生との交流、TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など
6. 研究力:リハビリテーション分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① リハビリテーションに関する適切な研究計画が立案でき、その計画を他者に適切に伝えることができるか ② リハビリテーションに関する適切な修士論文を完成させ、その成果を適切に発表することができるか	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ、リハビリテーション方法論基礎Ⅲ、国内外の専門領域での学会発表・論文発表、修士論文作成など
7. 専門知識:リハビリテーション分野における高度な専門知識と運用能力	リハビリテーションに関する高度な専門知識を習得し、自らも発信できる能力を得られるか	リハビリテーション特別研究、リハビリテーション事例研究、各専門的な学会が開催する研究会や研修会への参加など

8. 倫理観:リハビリテーション分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	リハビリテーションに関する基礎的な研究能力、倫理観および倫理的知識を得られているか	リハビリテーション方法論基礎Ⅰなど、APRIN など関連する内容の e-learning の受講など
学位論文に係る評価の基準		
1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、リハビリテーション科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. リハビリテーション科学分野の国内外の発展に寄与するオリジナルな研究成果が修士論文に相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な証拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等がリハビリテーション科学分野の修士論文に相応しい形式でまとめていること。 学位論文が満たすべき水準:主指導・副指導教員のいずれもが、上記の 1～5 を満たしていると判断できること 審査委員の体制:主指導 1 名、副指導 2 名 審査方法:修士論文、論文発表会、口頭試問により主指導・副指導教員が総合的に判断 審査項目:修士論文、論文発表会、口頭試問		
カリキュラム・ポリシー		
リハビリテーションの4分野(医学的リハビリテーション、特別支援教育、社会リハビリテーション、職業リハビリテーション)にわたる研究力、専門知識、倫理観とともに、学際的なリハビリテーションに基盤の置いた高度専門職業人とリハビリテーション専門職養成校等の高等教育教員等を育成するための基礎素養、幅広い視野、多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。		
教育課程の編成方針	学生の特攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、学術院共通専門基盤科目から 1 単位を履修することを推奨する。 具体的な履修科目や副指導体制の配置は個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。 2 年間で問題発見能力や問題解決能力、臨床研究に関する計画能力などの研究リテラシーを獲得して、修士論文を作成するとともに、プレゼンテーション、討議コミュニケーション技法を獲得するためのコースワークを充実させ、臨床研究者としての資質を高めることを念頭に置いている。また、通常の専門分野にとらわれない学際的な教育課程を編成し、高度の総合的視野を備えた有能な人材が育つようにコア・カリキュラムが組まれている。	
学修の方法・プロセス	(指導体制) ・リハビリテーションに関わる実践的な研究能力・発表能力については、1年次から各種研究方法に関する講義・実習が行われ、個別や集団による研究指導、発表会が行われる。 ・倫理的な配慮では1年次に倫理審査に関わる講習会や説明会を開催するほか、倫理委員や指導教員を中心に個別の指導行われる。 ・他分野・他領域との協力・連携については、学生や修了生の専門分野・就職先が多様であるため、在学中から、学生・修了生を交えた情報交換や研究協力が盛んに行われる。 ・国際的な視野に立った実践的な研究能力については、「リハビリテーション英語」の講義のほか、海外でリハビリテーション領域の実践・研究で評価の高い大学との交流を行う。 (修学支援) 担任を中心に全教員が、社会人大学院生固有の相談内容(仕事と学業の両立、子育て等の家庭状況)について、個々に相談できる体制をとっている。社会人大学院生が職場から大学に直行して学習・研究活動ができるように、情報処理室、大学院生研究室の環境等を整えている。職場との関係等で土日の集中講義を一定時間数確保している。	
学修成果の評価	・1 年次に研究テーマに関するプレゼン発表を行い内容及び修士論文進捗状況の評価する。 ・2 年次には、構想発表、中間発表、最終発表、口述試験において評価する。修士論文の評価の観点とは、研究のオリジナリティ、論文全体の構成、分析の適切性、考察・結論の妥当性、論理の一貫性などについて、教員 3 名による査読と、最終発表、口述試験の観点から総合的に評価する。	
アドミッション・ポリシー		
求める人材	高齢者・障害者・子どもといったライフスパンに対する総合的・包括的なリハビリテーションに関心を持ち、学際的な研究の視点のある研究者および専門職業人を対象にした教育を行う。これに加えて、リハビリテーションの4つの分野(医学・教育・社会・職業領域)を横断的に分析・研究できるリハビリテーションに関わる研究者と高度専門職業人の養成に力点を置いた教育をする。	

入学者選抜方針	大学卒業後、リハビリテーション関連分野での実務経験を1年以上有している社会人に対して、入学試験を行う。入学試験は、入試情報公開、オープンキャンパス・入試説明会の実施(4月、5月)を経て、募集は7月中旬を締切とする。8月下旬に入学試験を実施し、10月に翌年4月の入学の合格者を発表する。入学試験は、書類審査、基本的な知識をみるための論述式試験、志望動機に関する面接により評価を行う
----------------	--